

長町・歩いて楽しい街並みづくり検討会  
第4回 利活用ワーキンググループ会議録

- 1 日 時 令和7年5月22日(木)18時30分～20時
- 2 会 場 太白区役所5階 第3会議室
- 3 出席者  
委員:阿部勝己氏(佐藤秀彦委員及び渡辺由之委員の代理)、阿部正人委員、利大作委員、  
加藤隆委員、小島博仁委員、小林利一委員、鈴木有希子委員、堀内祥弘委員(WG座長)  
オブザーバー:柿沼敏万氏  
コーディネーター:氏家滉一氏  
太白区(事務局):長町地域活性化推進室長、長町地域活性化推進室 船水主査、木皿主査、  
小澤主事
- 4 次第・資料
  - 1 開 会
  - 2 ワーキングの内容について
    - ・ワーキングの今後の進め方【資料1】
    - ・街並み活用戦略・街並みイメージ(案)について【資料2】
    - ・R7賑わい創出社会実験(案)の概要【資料3】
  - 3 意見交換
  - 4 閉 会

## 1 開会

## 2 ワーキングの内容について

<事務局より資料1～3に基づき説明>

## 3 意見交換

堀内座長:

- 資料1及び資料2について各委員から意見をお聞きしたい。

阿部正人委員:

- 戦略には、長町地域以外の方が長町商店街エリアに訪れたいと思うような魅せる仕掛けづくりも必要だと思う。
- アートのようなもの。トレッキングやお散歩コースなど歩かせる仕掛けもあるとよいのでは。

加藤委員:

- 学生活動のフィールド活用強化について、学生をどう巻き込んでいくか、どこが主体でやっていくのかなど、具体的なルールを敷いていかないと学生もなかなか活躍できないと思う。
- 他の戦略も同様に具体化が必要だと思う。

小島委員:

- 実践メニューについて、総花的で何から始めれば良いかが分かりにくい。
- 商店街マップの作成と記載があるが、ただマップを作ればよいのではなく、マップを作ってそれが活かされる取組みを考えなければいけない。商店街の各店舗が1箇所に集まって、商店街をアピールするためにマルシェイベントを定期開催するなど、他都市の好事例もある。
- 空き店舗などに新しく出店するにあたっては、大家さんの理解や協力が必要であるため、その仕組みづくりが大事だと思う。
- 拠点を作って魅力があれば人は歩く。長町駅西口広場はもちろん、長町駅前プラザが拠点として

環境的にも良いので、管理や積極的な活用の仕方を考えていく必要がある。

鈴木委員：

- 戦略は綺麗で長町らしさが抜け落ちている。戦略の具体的な取組みとして盛り込むことなども検討してほしい。
- 実践メニューは、原資が明らかにならないと、誰がどのようにやるのかも含め、具体的にイメージできない。

事務局：

- 長町らしさについては、戦略に位置付けるという考えもあると思うが、戦略より上の、全体に通じる大きなものとして位置付けていくことも考えている。
- 原資について、概ねハード面は行政がやると思うが、ソフト面は役割分担の中で今後検討していきたい。

小林委員：

- 非常に楽しくなる資料だと思った。
- 町内会では、親子で安全に歩ける場所があると良いという話がよく出る。駅前の歩道は広くて歩きやすいが、三丁目・一丁目の方はそうではない。

阿部勝己氏：

- 2014年に実施した商店街のアンケートでは、長町駅前プラザについて「バス待ちの人しか利用していない」「誰でも気軽には入れるカフェがほしい」などの意見があった。
- 長町駅前プラザを含む長町駅西口広場については、芝生を敷いたり、カフェがあったり、商店街を案内する案内所があったりと、楽しく魅力的な場所にしたい。

堀内座長：

- 長町の拠点という意味での長町駅前プラザの利活用について考えていかなければならない。

利委員：

- ハード面はもちろん、それも含む環境を整えるのが行政の役割だが、それをどう使っていくかは民でやっていただきたい。
- 取組みを具体的に実現するためにどういった整理が必要か、皆さんと議論を進めながら検討してまいりたい。

(オブザーバー挙手)

柿沼氏：

- 今回の取組みは非常に良いと思っている。長町駅前プラザのことだけではなく、まちづくりとして市民協議会で協力していきたい。
- 更地からのまちづくりではないため、今の長町をどうしていくかという視点が重要である。街並みづくりは地主などの協力がないと実現は難しいと思う。

小島委員：

- 長町駅前プラザは、設立当時は画期的な施設だったが、社会的な要請が変わってきていて、公園でも収益をあげて運営していくことが求められている。
- 資料2のP4からP6の建物の用途について、大事なものはグランドレベルなので1階だけの建物用途のプロットにしてほしい。

阿部勝己氏：

- 先日、商店街連合会として、エリアマネジメントの説明会を行った際に、1軒1軒声がけをしたにもかかわらず40名しか集まらなかった。特に既存の商店の方や若い世代の方に参加してもらえなか

- った。
- 今年度、空き店舗対策として、商店街で調査の実施や仕組みづくりの検討をしていきたいと考えている。

堀内座長：

- 資料2については、皆さんの意見を踏まえて次のワーキンググループで改めて提示したい。

堀内座長：

- 資料3について意見交換していきたい。
- 交通に関する社会実験の方向性について教えてほしい。

事務局：

- 交通に関しては、昨年度の社会実験で平日の朝に渋滞が見られるなどの課題が出たので、交通シミュレーションを実施して渋滞対策や新宮沢橋が開通する影響の検証などを行っている。交通シミュレーションの結果等について、交通ワーキンググループ等で議論した上で、交通に関する社会実験を検討していく予定である。

加藤委員：

- 商店街や地域だけでは利活用しきれないので、多くの人を巻き込むことは必要なことだと思う。
- 社会実験の対象エリアが複数あるが、部分ごとの活用でも良いのか。

事務局：

- 部分的な活用でも良い。

鈴木委員：

- スケジュールが厳しいと思うので、社会実験の時期を決めた背景を教えてほしい。
- 車線規制を伴う社会実験は、今年度は行わない予定なのか。

事務局：

- 社会実験の時期を決めた理由として、昨年度の社会実験で寒かったという意見もあったことと、大型イベントとの連携を検証したいことから、8月下旬から10月上旬としている。
- 現在実施している交通シミュレーションの結果を踏まえて社会実験の実施を検討していく。

小島委員：

- 昨年度の社会実験では、国土交通省が視察に来て、地域が積極的に参加している手作り感があって面白いと評価された。
- 募集にあたっては、商店街の店舗の協力や理解をいかに得られるかが大事だと思う。
- 審査は区の職員だけで行うのか。

事務局：

- 審査は、区と地域で協働して行う予定である。

阿部勝己氏：

- 実施時期が広瀬川灯ろう流しの1週間後であるため、商店街の店舗に協力を求めるなら、週末だけお願いするなど、相手方の負担も考えて依頼した方が良い。
- 長町駅前プラザで飲食等の提供を行い、アンケートなどで今後の方向性を検討できると良いのではないか。

小林委員：

- 実際にやってみることが大事だと思う。非常に楽しみである。

阿部正人委員：

- 昨年度の社会実験で周知が足りないという意見があったかと思うので、幅広い周知方法を検討してほしい。
- 今後を見据えた管理と運営が重要だと思う。

利委員：

- 既存の店舗にも頑張ってもらっているが、それだけでは足りないと思う。
- やりたいと思った人が、簡単に申込みができるように工夫したいと思う。募集の周知にあたっては、皆さまにもご協力いただきたい。

堀内座長：

- 長町商店街は、土日は空いていない店舗が多い。社会実験期間中、土日も営業できればと思う。

氏家氏：

- 全国の社会実験の事例では、ハード面を重視するものが多いなか、ソフト面を重視することは大変良いことだと思う。
- 本日議論のあった長町駅前プラザの利活用の方向性の検討という意味で、飲食機能を備えたテナショップの導入についてご提案したい。

堀内座長：

- 次回のワーキンググループで募集結果や実施内容案を提示していきたい。

#### 4 閉会

(20 時終了)